

調査結果の概要

1 要 旨

平成16年産主要果樹の結果樹面積は23万2,800haで、前年産に比べ5,600ha(2%)減少した。

これは、おうとうで他品目からの転換により新植されたものが結果樹齢に達し増加したものの、他の品目で老木園の廃園があったことにより減少したためである。

収穫量は326万2,000t、出荷量は287万tで、前年産に比べてそれぞれ21万9,000t(6%)、20万1,000t(7%)減少した。

これは、いよかん、すもも、うめ及びパインアップルで作柄の悪かった前年産を上回ったものの、その他の品目で相次ぐ台風の影響から落果や傷果が多かったこと等により減少したことによる。

表1 平成16年産主要果樹の結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結 果 樹 面 積	10a当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
					結果樹 面 積	10a当た り 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t				
1) 計	232 800	...	3 262 000	2 870 000	98	...	94	93
み か かん	52 300	2 030	1 060 000	936 500	97	95	92	92
な つ み かん	3 640	2 030	73 800	64 300	96	103	99	99
は っ さ く	2 770	2 090	57 800	49 000	96	97	94	93
い よ かん	7 160	1 830	131 000	117 800	94	117	109	109
ネ-ブルオレンジ	1 120	1 280	14 300	11 900	92	104	96	96
り ん ご	41 300	1 830	754 400	666 900	99	90	90	89
日 本 な し	15 500	2 110	328 100	300 800	99	100	99	99
西 洋 な し	1 730	1 380	23 900	20 800	100	71	71	70
か き	23 800	975	232 400	184 900	98	90	88	87
び わ	1 940	334	6 470	5 080	96	73	70	69
も も	10 300	1 470	151 900	139 500	98	99	97	96
す も も	3 140	862	27 100	23 500	98	122	120	120
お う と う	4 180	393	16 400	14 400	105	82	85	85
う め	17 300	658	113 600	95 600	95	136	129	127
ぶ ど う	19 200	1 070	205 600	187 500	99	94	93	93
く り	24 300	99	24 000	16 600	96	101	97	95
2) パインアップル	3) 443	2 590	11 500	11 100	99	107	106	106
キウイフルーツ	2 620	1 110	29 100	23 400	98	80	78	76

注：1)は、18品目の合計である。

2)は、沖縄県の数値である。

3)は、収穫面積である。

2 解説

(1) みかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は5万2,300haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて1,400ha(3%)減少した。

品種別にみると、早生温州、普通温州は前年産に比べてそれぞれ2%、3%減少し、早生温州のうちハウスみかんは3%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,030kgで、相次ぐ台風により落果や傷果が多かったこと等から、前年産を5%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は106万tで、前年産に比べて8万6,000t(8%)減少した。

品種別にみると、早生温州及び普通温州は前年産に比べてそれぞれ8%、6%減少した。

主要な都道府県別にみると、和歌山県(全国の収穫量に占める割合17%)、愛媛県(同16%)は前年産に比べてそれぞれ5%、13%減少し、静岡県(同13%)は8%増加した。

出荷量は93万6,500tで、前年産に比べて7万7,500t(8%)減少した。

図1 みかんの結果樹面積及び収穫量の推移

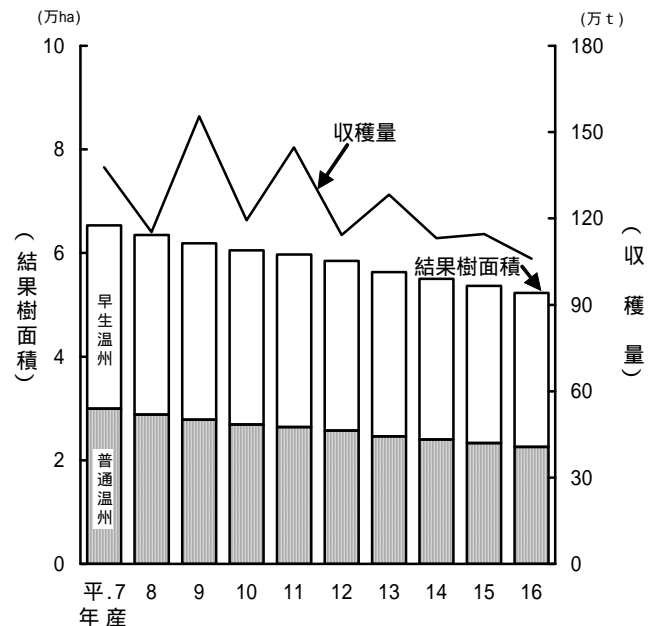


図2 みかんの都道府県別収穫量割合

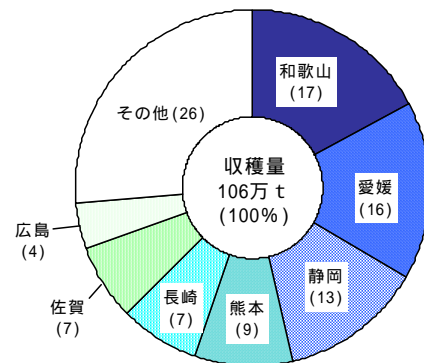


表2 平成16年産みかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量		出荷量	前年産対比(%)			
			t	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
みかん	52 300	2 030	1 060 000	100	936 500	97	95	92	92
早生温州	29 700	2 110	625 000	59	561 900	98	94	92	92
うちハウスみかん	1 160	4 700	54 600	5	51 600	97	99	96	96
極早生みかん	9 360	1 980	185 500	18	167 300
普通温州	22 600	1 930	435 400	41	374 600	97	97	94	94

注：「極早生みかん」については、前年産の全国値を推計していないため、前年産対比を行っていない。

(2) なつみかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は3,640haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて170ha(4%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,030kgで、愛媛県で相次ぐ台風により落果や傷果が多かったものの、静岡県、熊本県及び鹿児島県で高温・適雨により果実の肥大が良好だったこと等から、前年産を3%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は7万3,800tで、前年産に比べて1,100t(1%)減少した。

主要な都道府県別にみると、熊本県(全国の収穫量に占める割合26%)及び鹿児島県(同14%)は、前年産に比べそれぞれ1%、4%増加し、愛媛県(同18%)は6%減少した。

出荷量は6万4,300tで、前年産に比べて900t(1%)減少した。

図3 なつみかんの結果樹面積及び収穫量の推移

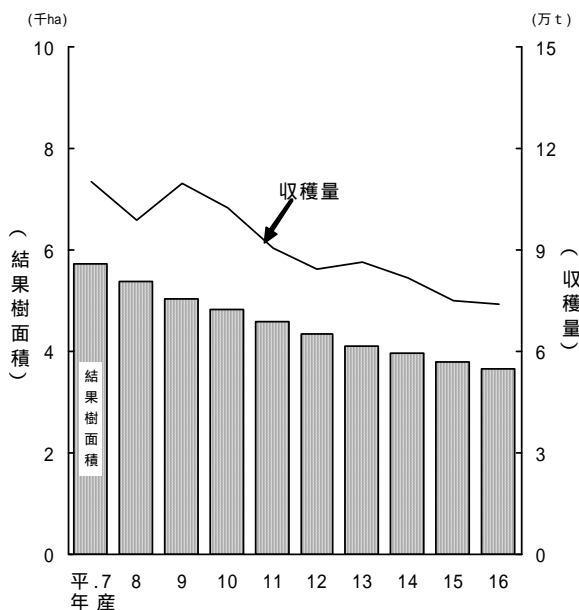


図4 なつみかんの都道府県別収穫量割合

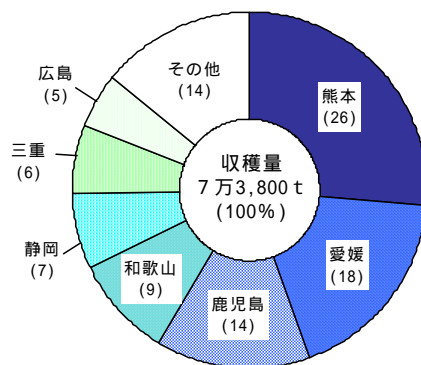


表3 平成16年産なつみかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
なつみかん	3 640	2 030	73 800	64 300	96	103	99	99

(3) はっさく

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,770haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて110ha(4%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,090kgで、和歌山県で12月の低気圧通過による強風により落果や傷果が多かったこと等から、前年産を3%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は5万7,800tで、前年産に比べて4,000t(6%)減少した。

主要な都道府県別にみると、和歌山県(全国の収穫量に占める割合60%)は前年産に比べて7%減少し、広島県(同14%)及び愛媛県(同8%)はそれぞれ18%、2%増加した。

出荷量は4万9,000tで、前年産に比べて3,600t(7%)減少した。

図5 はっさくの結果樹面積及び収穫量の推移

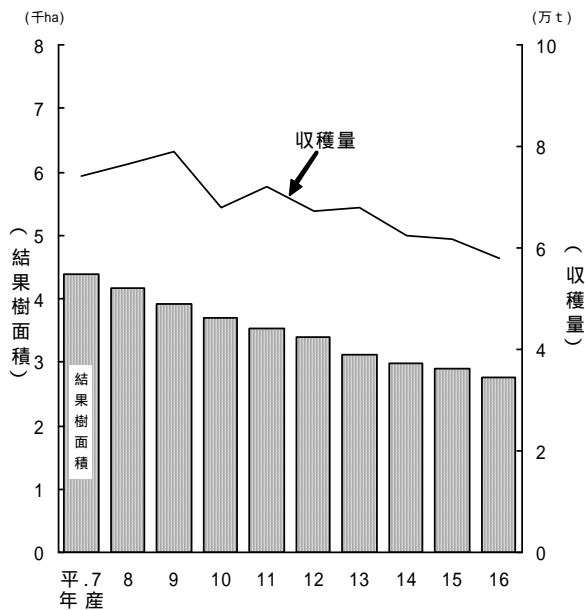


図6 はっさくの都道府県別収穫量割合

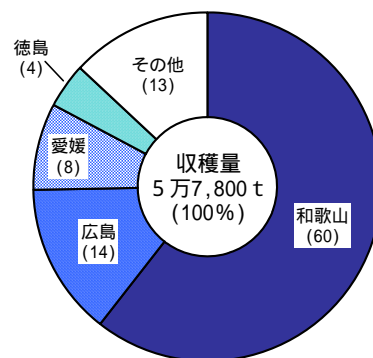


表4 平成16年産はっさくの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
はっさく	2 770	2 090	57 800	49 000	96	97	94	93

(4) いよかん

ア 結果樹面積

結果樹面積は7,160haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて490ha(6%)減少した。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は1,830kgで、高温・多雨により肥大が良好だったこと等から、前年産を17%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は13万1,000tで、前年産に比べて1万1,200t(9%)増加した。

主要な都道府県別にみると、愛媛県(全国の収穫量に占める割合84%)及び和歌山県(同4%)は前年産に比べてそれぞれ15%、5%増加した。

出荷量は11万7,800tで、前年産に比べて1万200t(9%)増加した。

図7 いよかんの結果樹面積及び収穫量の推移

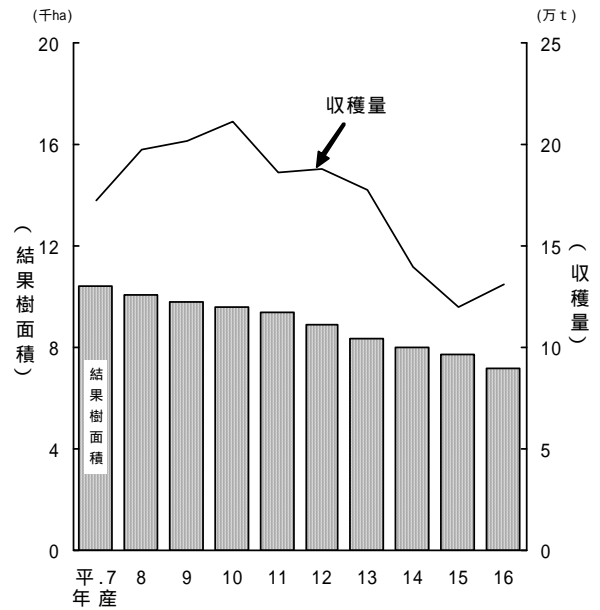


図8 いよかんの都道府県別収穫量割合

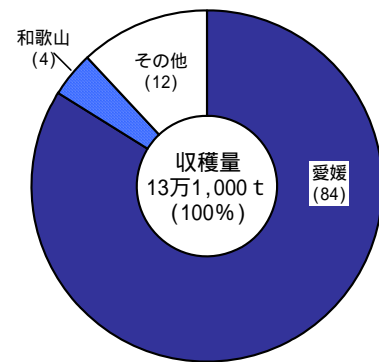


表5 平成16年産いよかんの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	t				
いよかん	7 160	1 830	131 000	117 800	94	117	109	109

(5) ネーブルオレンジ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,120haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて90ha(8%)減少した。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は1,280kgで、高温・多雨により肥大が良好だったこと等から、前年産を4%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万4,300tで、前年産に比べて600t(4%)減少した。

主要な都道府県別にみると、広島県(全国の収穫量に占める割合24%)及び静岡県(同20%)は前年産に比べて共に8%増加し、和歌山県(同20%)は12%減少した。

出荷量は1万1,900tで、前年産に比べて400t(4%)減少した。

図9 ネーブルオレンジの結果樹面積及び収穫量の推移

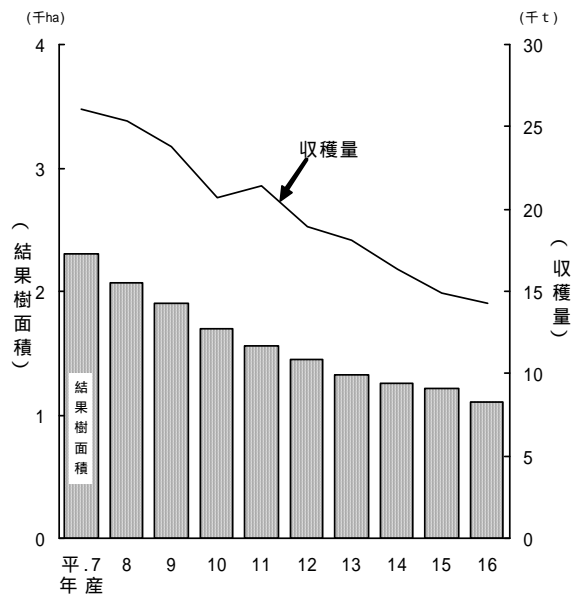


図10 ネーブルオレンジの都道府県別収穫量割合

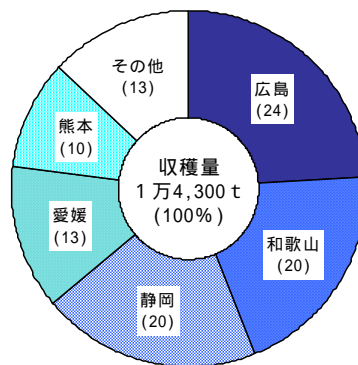


表6 平成16年産ネーブルオレンジの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量
ネーブルオレンジ	1 120	1 280	14 300	11 900	92	104	96	96

(6) りんご

ア 結果樹面積

結果樹面積は4万1,300haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて300ha(1%)減少した。

品種別にみると、ジョナゴールドは前年産並み、つがる及び王林は共に2%、ふじ及び陸奥は共に1%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,830kgで、相次ぐ台風により落果や傷果が多かったこと等から、前年産を10%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は75万4,400tで、前年産に比べて8万7,800t(10%)減少した。

品種別にみると、王林は前年産に比べて16%、陸奥は13%、つがるは11%、ふじは10%、ジョナゴールドは8%減少した。

主要な都道府県別にみると、青森県(全国の収穫量に占める割合55%)、長野県(同19%)及び岩手県(同7%)前年産に比べてそれぞれ3%、20%、8%減少した。

出荷量は66万6,900tで、前年産に比べて8万200t(11%)減少した。

図11 りんごの結果樹面積及び収穫量の推移

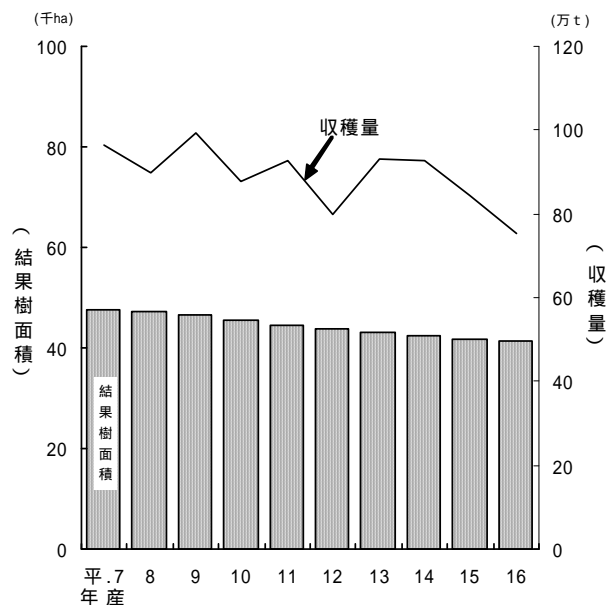


図12 りんごの都道府県別収穫量割合

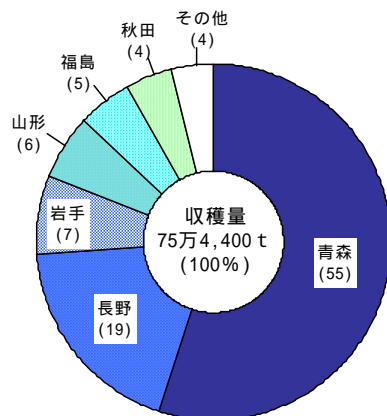


表7 平成16年産りんごの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量		出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
			収 穫 量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
りんご	41 300	1 830	754 400	100	666 900	99	90	90	89
つがる	5 600	1 680	94 200	12	82 600	98	90	89	88
王 林	3 830	1 600	61 100	8	54 400	98	86	84	83
ジョナゴールド	3 650	2 080	75 700	10	67 600	100	92	92	91
ふ じ	21 100	1 970	416 000	55	367 500	99	91	90	90
陸 奥	946	1 630	15 400	2	13 400	99	88	87	86
そ の 他	6 150	1 500	92 000	12	81 500	100	91	91	91

(7) 日本なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万5,500haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて200ha(1%)減少した。

品種別にみると、新高は前年産に比べて1%増加し、幸水、豊水及び二十世紀は共に1%減少した。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は2,110kgで、関東で作柄の悪かった前年産を上回ったものの、その他の地域で相次ぐ台風の影響により落果や傷果が多かったこと等から、前年産並みとなった。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は32万8,100tで、前年産に比べて4,100t(1%)減少した。

品種別にみると、豊水は前年産に比べ11%増加し、幸水、二十世紀及び新高はそれぞれ1%、2%、14%減少した。

主要な都道府県別にみると、千葉県(全国の収穫量に占める割合12%)及び茨城県(同11%)はそれぞれ24%、6%増加し、鳥取県(同9%)は7%減少した。

出荷量は30万800tで、前年産に比べて4,500t(1%)減少した。

図13 日本なしの結果樹面積及び収穫量の推移

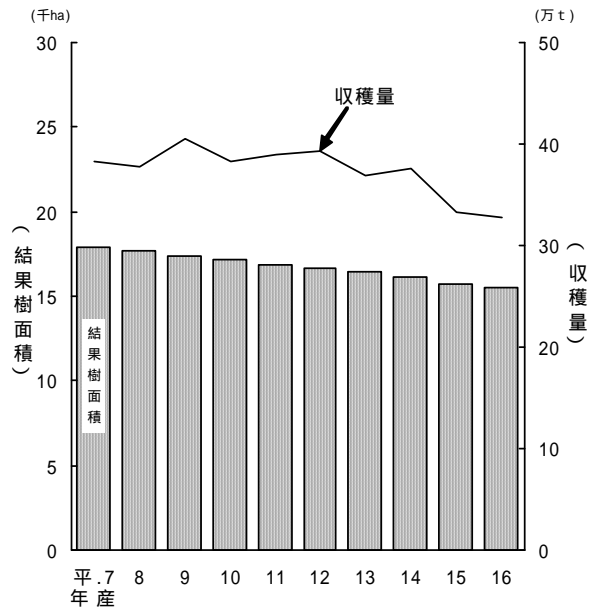


図14 日本なしの都道府県別収穫量割合

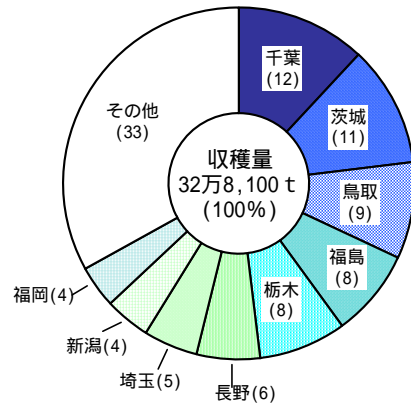


表8 平成16年産日本なしの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10aあたり収量	収穫量		出荷量	前年産対比(%)			
			収量	シェア		結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
日本なし	15 500	2 110	328 100	100	300 800	99	100	99	99
幸水	6 140	1 970	121 100	37	112 800	99	100	99	99
豊水	3 960	2 490	98 400	30	91 100	99	112	111	111
二十世紀	2 180	2 110	45 900	14	41 500	99	99	98	98
新高	1 360	2 180	29 600	9	26 900	101	85	86	85
その他	1 900	1 740	33 100	10	28 500	96	86	82	82

(8) 西洋なし

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,730haで、前年産並みとなった。

品種別にみると、パートレットは前年産に比べて3%増加し、ラ・フランスは前年産並みとなった。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は1,380kgで、山形県等で相次ぐ台風の影響により落果や傷果が多かったこと等から、前年産を29%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万3,900tで、前年産に比べて9,900t(29%)減少した。

品種別にみると、ラ・フランス及びパートレットは前年産に比べてそれぞれ30%、7%減少した。

主要な都道府県別にみると、山形県(全国の収穫量に占める割合62%)、長野県(同10%)及び青森県(同7%)は前年産に比べてそれぞれ32%、16%、10%減少した。

出荷量は2万800tで、前年産に比べて9,200t(30%)減少した。

図15 西洋なしの結果樹面積及び収穫量の推移

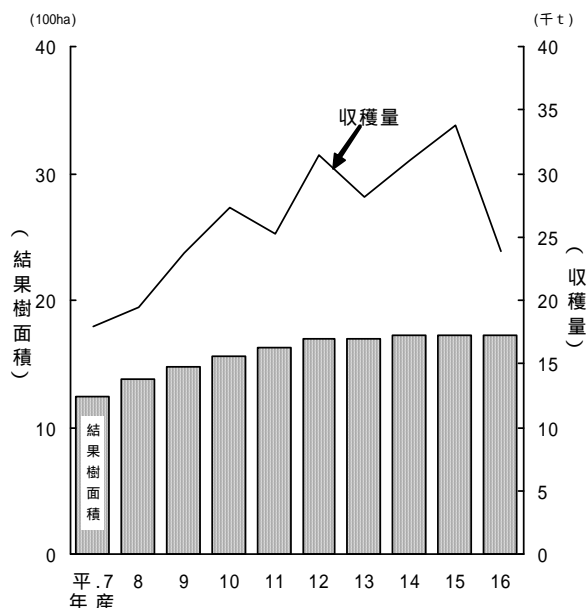


図16 西洋なしの都道府県別収穫量割合

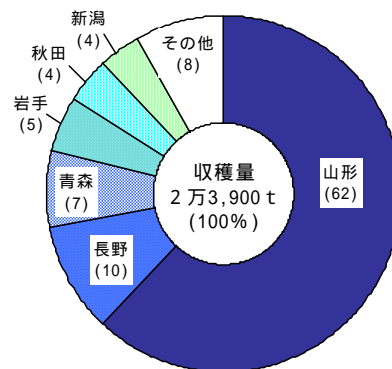


表9 平成16年産西洋なし結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10aあたり収量	収 穫 量		出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
			収 穫 量	シェア		結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量
西 洋 な し	ha	kg	t	%	t	100	71	71	70
ラ・フランス	1 730	1 380	23 900	100	20 800	100	71	71	70
パートレット	1 130	1 480	16 700	70	14 700	100	70	70	69
マックス・レッド・パートレット	154	1 190	1 830	8	1 590	103	90	93	92
マックス・レッド・パートレット以外	21	1 390	291	1	279
そ の 他	430	1 180	5 090	21	4 270

注：1 「マックス・レッド・パートレット」については、前年産の全国値を推計していないため、前年産対比を行っていない。
 2 「その他」については、平成16年産から「マックス・レッド・パートレット」を除いたため、前年産対比を行っていない。

(9) かき

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万3,800haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて600ha(2%)減少した。

品種別にみると、平核無及び刀根早生は前年産に比べてそれぞれ2%、1%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は975kgで、福岡県等で相次ぐ台風の影響により落果や傷果が多かったこと等から、前年産を10%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は23万2,400tで、前年産に比べて3万2,600t(12%)減少した。

品種別にみると、平核無及び刀根早生は前年産に比べてそれぞれ13%、7%減少した。

主要な都道府県別にみると、和歌山県(全国の収穫量に占める割合22%)、奈良県(同11%)及び福岡県(同8%)は前年産に比べてそれぞれ10%、7%、33%減少した。

出荷量は18万4,900tで、前年産に比べて2万7,900t(13%)減少した。

図17 かきの結果樹面積及び収穫量の推移

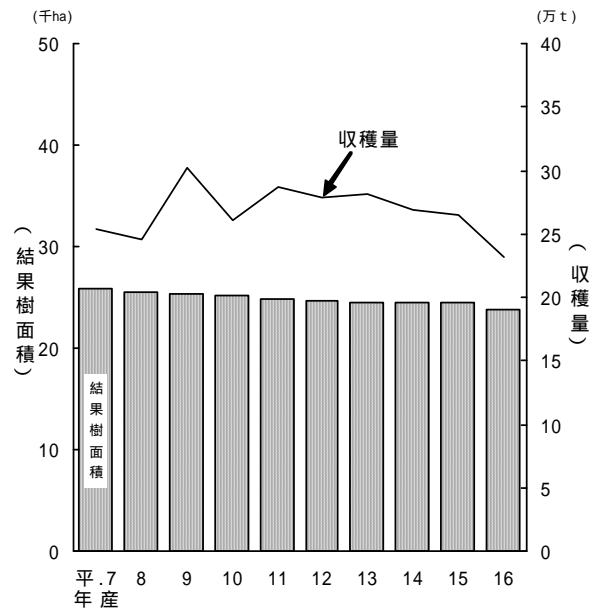


図18 かきの都道府県別収穫量割合

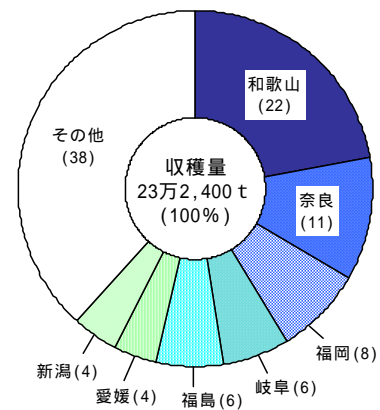


表10 平成16年産かきの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量		出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
			収 穫 量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
か き	23 800	975	232 400	100	184 900	98	90	88	87
富 有	8 230	854	70 300	30	55 500
次 郎	1 820	953	17 400	7	11 400
西村早生	798	909	7 250	3	6 020	92	92	84	90
其他甘がき	1 820	596	10 800	5	6 810	107	87	92	91
平核無	3 080	1 150	35 500	15	30 400	98	88	87	86
刀根早生	2 560	1 850	47 300	20	42 900	99	94	93	94
其他渋がき	5 510	795	43 800	19	31 900	95	95	90	90

注： 「富有」、「次郎」については、前年産の全国値の推計方法が異なるため、前年産対比を行っていない。

(10) びわ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1,940haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて80ha(4%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は334kgで、長崎県で前年の夏季の日照不足等により花芽分化が悪く開花数が少なかったことや、1月下旬の凍害により結果数が少なかったこと等から、前年産を27%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は6,470tで、前年産に比べて2,770t(30%)減少した。

主要な都道府県別にみると、長崎県(全国の収穫量に占める割合31%)及び鹿児島県(同11%)は前年産に比べてそれぞれ35%、13%減少し、千葉県は(同9%)は4%増加した。

出荷量は5,080tで、前年産に比べて2,340t(31%)減少した。

図19 びわの結果樹面積及び収穫量の推移

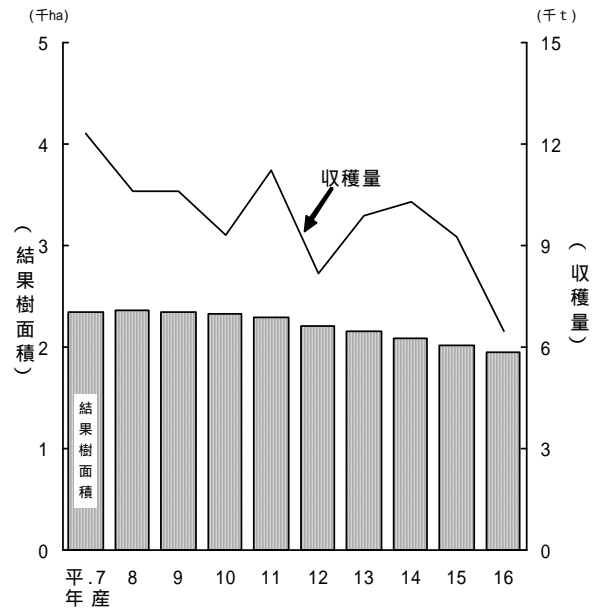


図20 びわの都道府県別収穫量割合

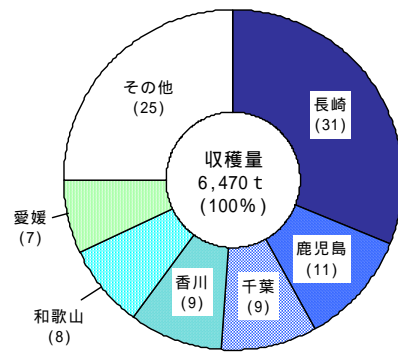


表11 平成16年産びわの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比 (%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
びわ	ha 1 940	kg 334	t 6 470	t 5 080	96	73	70	69

(11) もも

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万300haで、老木の廃園があったこと等から、前年産に比べて200ha(2%)減少した。

品種別にみると、白鳳、日川白鳳、浅間白桃及びあかつきなどの主要品種は前年産に比べてそれぞれ6%、11%、2%、12%増加し、その他で11%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,470kgで、福岡県等で作柄の悪かった前年産を上回ったものの、山梨県等で6月の台風第6号の影響により落果や傷果が多かったことや、7月以降の高温・少雨の影響により果実の肥大が悪かったこと等から、前年産を1%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は15万1,900t、前年産に比べて5,100t(3%)減少した。

品種別にみると、日川白鳳、川中島白桃及びあかつきは前年産に比べてそれぞれ1%、4%、19%増加し、白鳳及び浅間白桃はそれぞれ6%、4%減少した。

主要な都道府県別にみると、山梨県(全国の収穫量に占める割合35%)及び長野県(同13%)はそれぞれ4%、8%減少し、福島県(同20%)は15%増加した。

出荷量は13万9,500tで、前年産に比べて5,300t(4%)減少した。

図21 ももの結果樹面積及び収穫量の推移

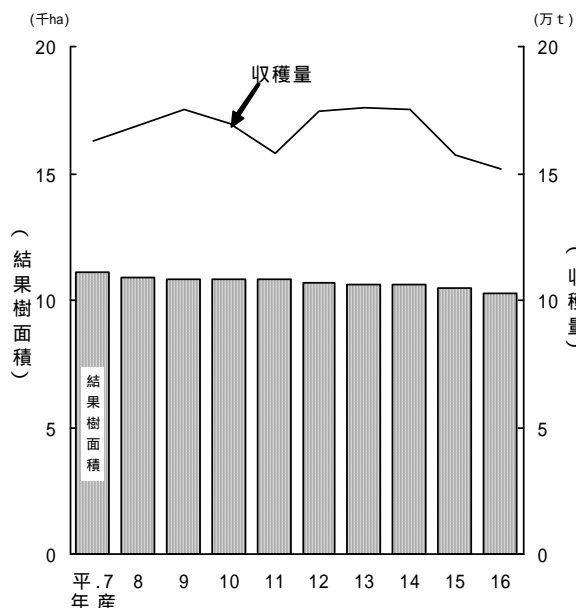


図22 ももの都道府県別収穫量割合

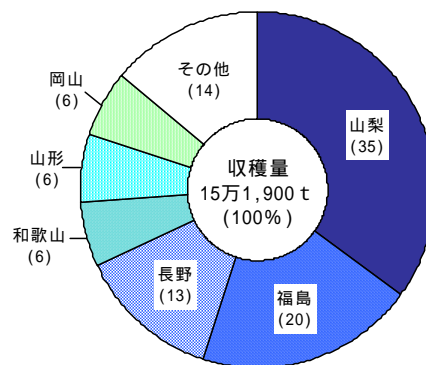


表12 平成16年産ももの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量		出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
			収 穫 量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
も も	10 300	1 470	151 900	100	139 500	98	99	97	96
白 鳳	1 790	1 490	26 600	18	24 800	106	89	94	94
日川白鳳	952	1 190	11 300	7	10 600	111	91	101	100
川中島白桃	1 150	1 750	20 200	13	18 400	100	104	104	103
浅間白鳳	474	1 590	7 520	5	7 040	102	94	96	94
あかつき	1 420	1 640	23 300	15	21 200	112	106	119	118
そ の 他	4 530	1 390	62 900	41	57 500	89	100	89	89

(12) すもも

ア 結果樹面積

結果樹面積は3,140haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて50ha(2%)減少した。

イ 10aあたり収量

10aあたり収量は862kgで、山梨県等で6月の台風第6号の影響により落果や傷果が多かったものの、開花期間中の低温・降雨の影響により作柄が著しく悪かった前年産を22%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万7,100tで、前年産に比べて4,500t(20%)増加した。

主要な都道府県別にみると、山梨県(全国の収穫量に占める割合34%)及び和歌山県(同15%)は前年産に比べて共に29%、長野県(同11%)は2%増加した。

出荷量は2万3,500tで、前年産に比べて3,800t(20%)増加した。

図23 すももの結果樹面積及び収穫量の推移

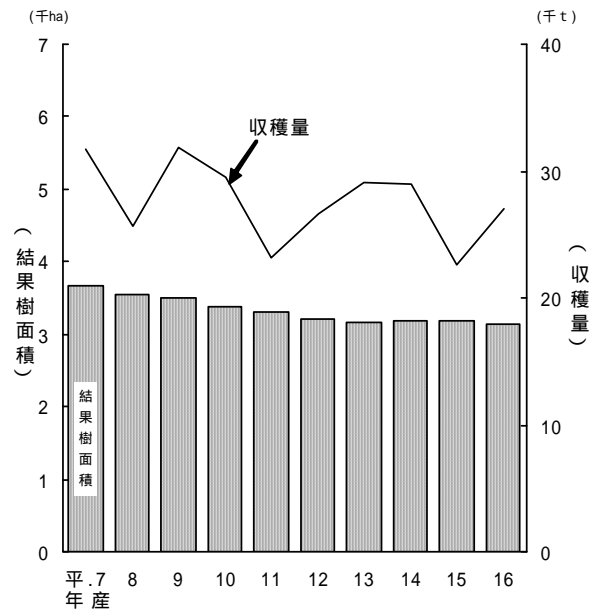


図24 すももの都道府県別収穫量割合

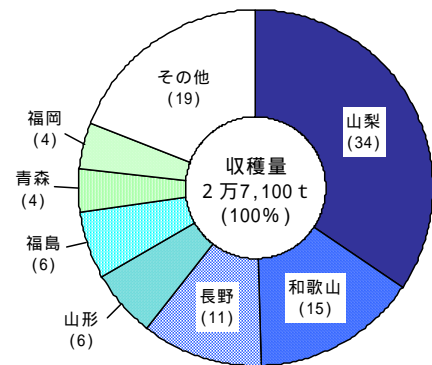


表13 平成16年産すももの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量	前年産対比(%)			
					結果樹面積	10aあたり収量	収穫量	出荷量
すもも	3 140	862	27 100	23 500	98	122	120	120

(13) おうとう

ア 結果樹面積

結果樹面積は4,180haで、老木園の廃園等があったものの、他品目からの転換により新植されたものが結果樹齢に達しこと等から、前年産に比べて190ha(5%)増加した。

品種別にみると、佐藤錦は前年産に比べて4%増加し、高砂は22%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は393kgで、山形県で開花期間中の低温・降雪・強風による受精不良で着果数が少なかったこと等から、前年産を18%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万6,400tで、前年産に比べて2,900t(15%)減少した。

品種別にみると、佐藤錦は前年産に比べて19%減少し、高砂は前年産並みとなった。

主要な都道府県別にみると、山形県(全国の収穫量に占める割合66%)及び青森県(同11%)は前年産に比べてそれぞれ23%、3%減少した。

出荷量は1万4,400tで、前年産に比べて2,700t(15%)減少した。

図25 おうとうの結果樹面積及び収穫量の推移

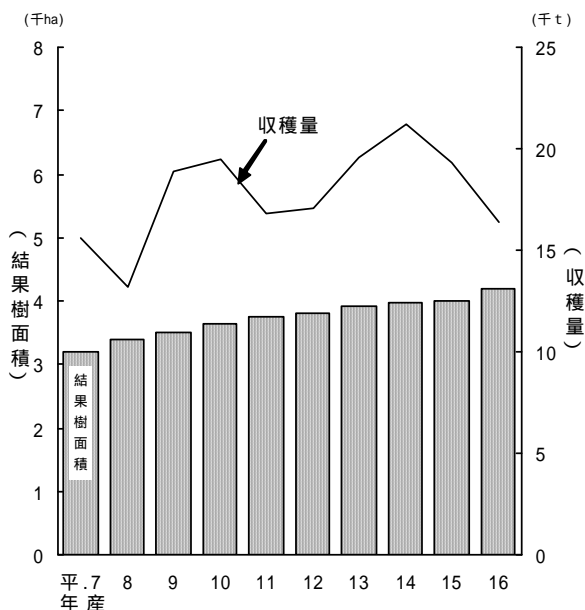


図26 おうとうの都道府県別収穫量割合

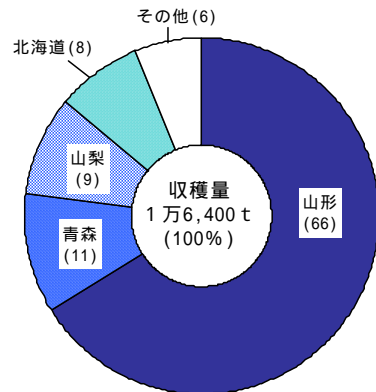


表14 平成16年産おうとうの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量		出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
			収 穫 量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
おうとう	4 180	393	16 400	100	14 400	105	82	85	85
佐藤錦	2 770	415	11 500	70	10 200	104	78	81	80
高砂	229	446	1 020	6	936	78	129	100	107
その他	1 180	329	3 880	24	3 360	115	85	98	95

(14) うめ

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万7,300haで、主産県以外で老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて900ha(5%)減少した。

品種別にみると、南高及び白加賀は前年産に比べてそれぞれ9%、16%増加したものの、その他で18%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は658kgで、和歌山県で開花期間中の低温等の影響により受精が悪かった前年産に比べて、着果数が多かったこと等から、前年産を36%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は11万3,600tで、前年産に比べて2万5,300t(29%)増加した。

品種別にみると、南高及び白加賀は前年産に比べてそれぞれ35%、38%増加した。

主要な都道府県別にみると、和歌山県(全国の収穫量に占める割合54%)及び群馬県(同7%)は前年産に比べてそれぞれ28%、2%増加した。

出荷量は9万5,600tで、前年産に比べて2万300t(27%)増加した。

図27 うめの結果樹面積及び収穫量の推移

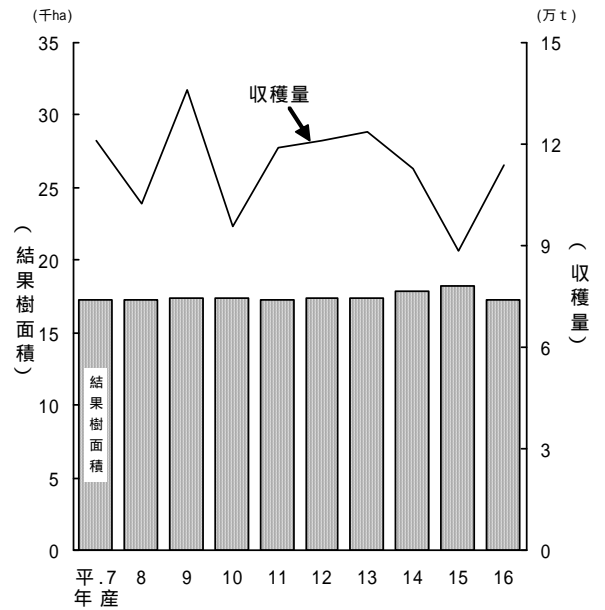


図28 うめの都道府県別収穫量割合

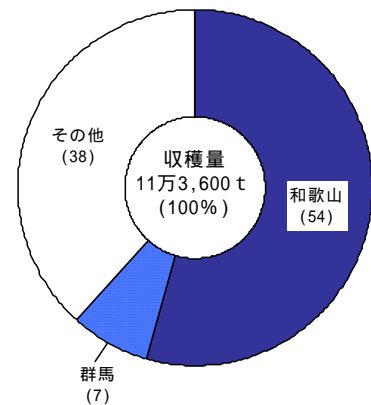


表15 平成16年産うめの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品 目	結果樹面積	10a当たり収量	収 穫 量		出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
			収 穫 量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
う め	17 300	658	113 600	100	95 600	95	136	129	127
南 高	5 170	1 170	60 700	53	56 400	109	123	135	134
白 加 賀	3 720	412	15 300	13	11 100	116	119	138	130
そ の 他	8 390	448	37 600	33	28 100	82	143	117	114

(15) ぶどう

ア 結果樹面積

結果樹面積は1万9,200haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて200ha(1%)減少した。

品種別にみると、ピオーネは前年産に比べて4%増加し、巨峰、デラウェア、マスカットベリーA及びキャンベルアーリーはそれぞれ1%、2%、5%、9%減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,070kgで、7月以降の高温・少雨の影響により果実の肥大が不良となったことに加え、相次ぐ台風の影響により落果や傷果が多かったこと等から、前年産を6%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は20万5,600tで、前年産に比べて1万5,200t(7%)減少した。

品種別にみると、デラウェア、マスカットベリーA及びピオーネは前年産に比べてそれぞれ2%、7%、1%、キャンベルアーリー及び巨峰は共に13%減少した。

主要な都道府県別にみると、山梨県(全国の収穫量に占める割合26%)及び長野県(同14%)は前年産に比べてそれぞれ5%、16%減少し、山形県(同10%)は2%増加した。

出荷量は18万7,500tで、前年産に比べて1万3,900t(7%)減少した。

図29 ぶどうの結果樹面積及び収穫量の推移

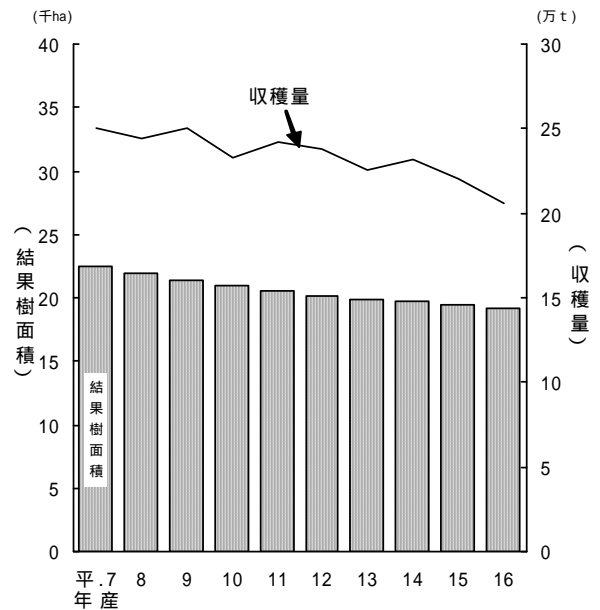


図30 ぶどうの都道府県別収穫量割合

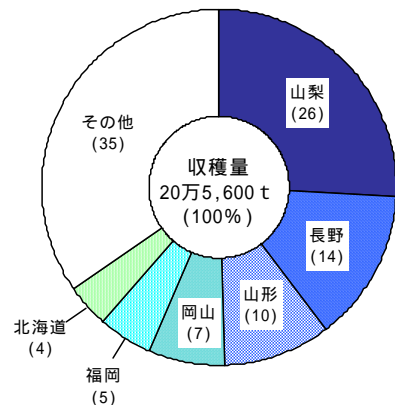


表16 平成16年産ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量		出荷量	前年産対比(%)			
			収量	シェア		結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
	ha	kg	t	%	t				
ぶどう	19 200	1 070	205 600	100	187 500	99	94	93	93
デラウェア	3 890	1 060	41 400	20	37 800	98	100	98	98
キャンベルアーリー	1 090	1 050	11 500	6	9 970	91	95	87	87
マスカットベリーA	1 050	1 160	12 100	6	11 100	95	99	93	94
甲州	512	1 480	7 590	4	6 860	95	99	94	94
巨峰	6 490	1 010	65 300	32	60 200	99	88	87	87
甲斐路	336	1 500	5 040	2	4 690	96	97	93	93
ピオーネ	1 700	1 200	20 400	10	18 600	104	95	99	99
その他	4 150	1 020	42 300	21	38 300	103	96	98	98

(16) くり

ア 結果樹面積

結果樹面積は2万4,300haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて1,000ha(4%)減少した

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は99kgで、熊本県等で相次ぐ台風の影響により落きゅう(稔)等が多かったものの、茨城県等で作柄の悪かった前年産を上回ったこと等から、前年産を1%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万4,000tで、前年産に比べて600t(3%)減少した。

主要な都道府県別にみると、茨城県(全国の収穫量に占める割合27%)は前年産に比べて28%増加し、熊本県(同12%)及び愛媛県(同6%)はそれぞれ25%、33%減少した。

出荷量は1万6,600tで、前年産に比べて900t(5%)減少した。

図31 くりの結果樹面積及び収穫量の推移

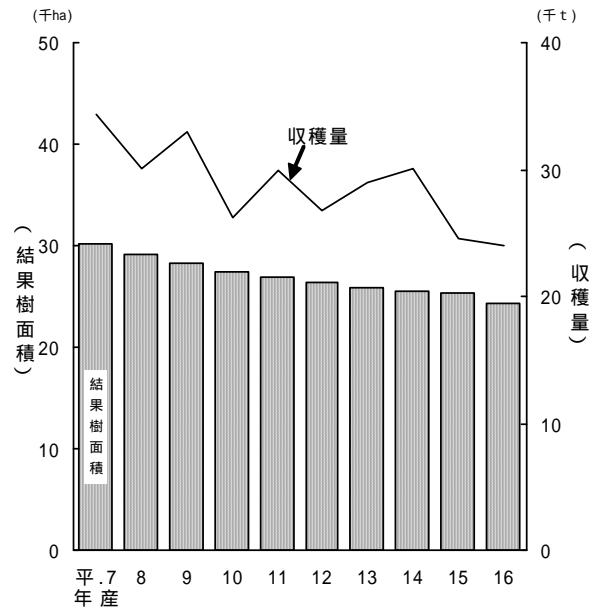


図32 くりの都道府県別収穫量割合

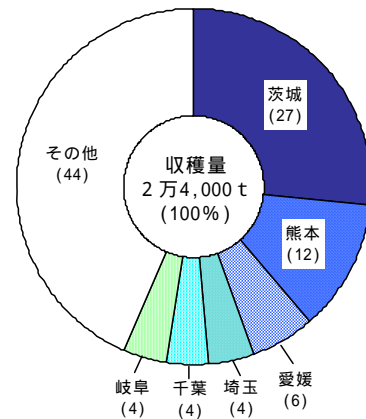


表17 平成16年産くりの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比 (%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
くり	24 300 ha	99 kg	24 000 t	16 600 t	96	101	97	95

(17) パインアップル (沖縄県)

ア 収穫面積

収穫面積は443haで、改植があったこと等から、前年産に比べて5 ha (1%) 減少した。

イ 10a 当たり収量

10a 当たり収量は2,590kgで、生育期間を通じて気温が高めに推移し、果実の肥大が良好であり、台風の影響も少なかったことから、作柄の悪かった前年産を7%上回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は1万1,500tで、前年産に比べて700t (6%) 増加した。

出荷量は1万1,100tで、前年産に比べて600t (6%) 増加した。

図33 パインアップルの収穫面積及び収穫量の推移

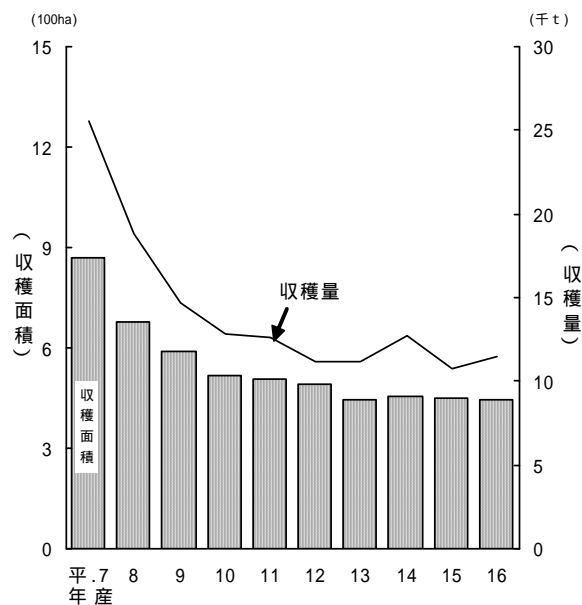


表18 平成16年産パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量

品 目	収 穫 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	前 年 産 対 比 (%)			
					結 果 樹 面 積	10a 当 たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
パインアップル	ha 443	kg 2 590	t 11 500	t 11 100	99	107	106	106

(18) キウイフルーツ

ア 結果樹面積

結果樹面積は2,620haで、老木園の廃園があったこと等から、前年産に比べて70ha(2%)減少した。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,110kgで、相次ぐ台風の影響による落葉があり、果実の肥大が抑制されたこと等から、前年産を20%下回った。

ウ 収穫量及び出荷量

収穫量は2万9,100tで、前年産に比べて8,300t(22%)減少した。

主要な都道府県別にみると、愛媛県(全国の収穫量に占める割合22%)、福岡県(同18%)及び和歌山県(同8%)は前年産に比べてそれぞれ29%、9%、40%減少した。

出荷量は2万3400tで、前年産に比べて7,300t(24%)減少した。

図34 キウイフルーツの結果樹面積及び収穫量の推移

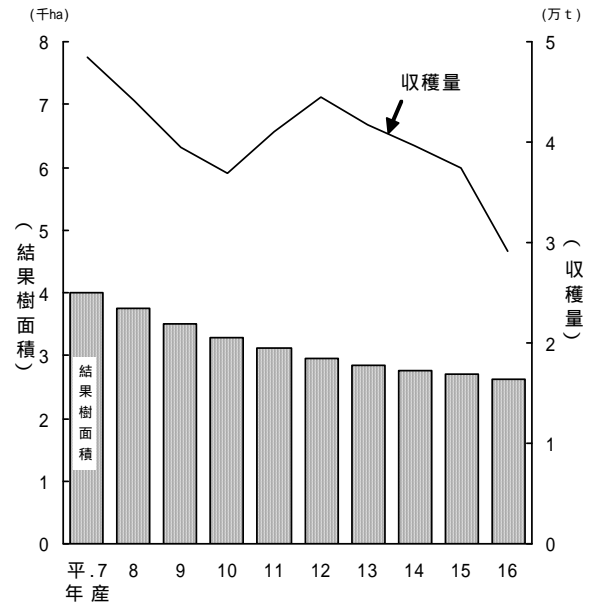


図35 キウイフルーツの都道府県別収穫量割合

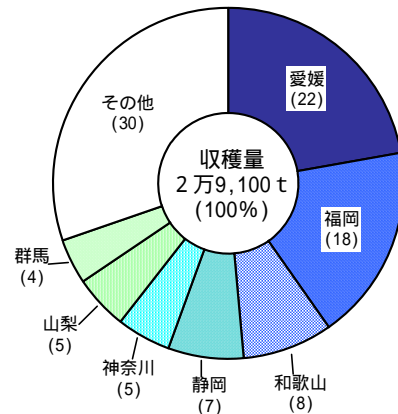


表19 平成16年産キウイフルーツの結果樹面積、収穫量及び出荷量

品目	結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量	前年産対比 (%)			
					結果樹面積	10a当たり収量	収穫量	出荷量
キウイフルーツ	2 620 ha	1 110 kg	29 100 t	23 400 t	98	80	78	76